

11火

卒業式・入学式

ハレルヤ!! この春、3年間の学びを終えた第24期生の卒業式が執り行われます。また、感謝なことに今年も入学生が与えられ、卒業式と併せて第27期生の入学式が執り行われます。



13木, 14金, 20木, 26水

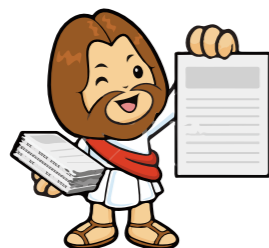
講義 キリスト者の考え方 永井 学院長

私たち人間の行動の一つひとつは、その時に抱いている感情によるものであり、その感情には、私たち自身の根底にある考え方が大きく影響します。この講義では、自分が現在持っている考え方を知り、キリスト者としてどのような考え方が必要かを学びます。

18火, 19水, 27木, 28金

伝道実践

主に、近隣の町での教会案内やトラクト等の配布、訪問伝道、関係づくりなどを行います。その他、介護施設やカフェ、イベント等での伝道ライブも行います。



25火

講義 デボーションの実際 見満 悟

クリスチャンの間で「デボーション」は、日々聖書を読み、祈り、神と交わることを指します。その「デボーション」について学びます。



学院長のデスクから

新しい年度になり、さまざまなことにチャレンジするシーズンを迎え、主からの導きと助けの中で毎日をお過ごしのことと思います。

私たち拡大宣教学院にとっても、新たなメンバーが加えられることもあり、いろいろな意味で成長の時となることを期待しています。

また、お知らせしております火災の修復工事がスタートしました。火災保険だけではすべての費用をカバーできず、あと30～40万円ほどの必要を抱えているという状況です。お祈りととともに、このために経済的なご支援をよろしくお願ひします。

皆さまの主とともに歩む毎日が、希望と喜びにあふれたものとなりますように!

学院長 永井信義



足場が組み立てられ、工事が始まりました。

編集後記

ハレルヤ!! 今回も無事にマグニファイを発行し、皆さまのお手元に届ける事ができたこと感謝です。まあ、実際に届けたのは、私では無いのですが……。

さて、この時期になると地域によっては、もう春の暖かさを感じているところもあるかと思われます。桜が満開だったり、既に散り始めているところもあったりなど。皆さまの住んでいる地域はでしょうか。ここ大衡村は、まだ雪やみぞれがちらついたりする日もあり、春を感じるのは、もう少し後になりそうです。

そのようななか新年度を迎え、世間でも新しい生活をスタートし、新しい一歩を踏み出す方が少なくないなか、私事ではありますが、この拡大宣教学院に入学してから、早いもので既に三年が経ち、無事に卒業することになりました。入学してすぐに、このマグニファイの編集を前任者から引き継ぎ、これまでの三年間、発行が遅れるなどのご迷惑をお掛けする事もあったかと思いますが、このようにして編集を続けてこれたこと感謝です。私は、妻が昨年10月に入学したこともあり、また私自身も、まだ学びたいという思いもあり、まだしばらくは学院に残りますので、引き続きマグニファイの編集をさせて頂く予定です。

今後も、皆さまが楽しく読んで、皆さまの益となれるような誌面にしていきたいと思ひますので、是非お祈りに覚えて頂けたら幸いです。よろしくお願ひします。

東海林 真



Kakudai Mission Institute No.344

Magnify

拡大宣教学院 機関紙 マグニファイ

深みへ招くイエス

イエス・キリスト福音の群 神の愛イエス・キリスト教会 牧師 中山 有太 師



初めにお知らせになりますが、4月からイエス・キリスト神の愛教会の枝教会として福岡県春日市で教会開拓を始めることになりました。まさか自分が開拓をするとは去年の夏ごろまでは思ってもみませんでした。教会を生み出していき思いが与えられ、礼拝可能な戸建ての物件を借り、家族とチーム5人で始めていくことになりました。個人的には、教会開拓を通して、主がさらに深みのある献身へ招いておられることを感じています。

聖書を見ると、弟子たちが魚をとるために夜通し働いたが何もとれず、イエス様の一声で大量の魚がとれ、ペテロが献身へ招かれる場面が出てきます。その一連の流れ(ルカの福音書5章1節～11節)の中で、イエス様はペテロに対して三つの命令をされました。まず群衆に話をするために、「舟を陸から少し漕ぎ出すように頼まれた」ということ。そして魚をとらせるために、「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい」と言われたこと。さらには、「こわがらなくてもよい。これから後、あなたは人間をとるようになるのです」と言われたこと。この箇所はマタイとマルコの福音書では、「わたしについて来なさい。あなたがたを人間をとる漁師にしてあげよう。」と命令形で書かれています。つまり「すべてを捨ててわたしについてきなさい」と言われたということ。このように三つの命令がされているわけですが、徐々にイエス様の命令が深く、重みのあるものとなっていることがわかります。

主は段階を踏んで、私たちをより深みのある献身へと招かれるのではないのでしょうか。極端に言うなら、最初からアフリカの奥地に行って、福音を宣べ伝えなさいと言われようなお方ではないということです。(そういう方もたまにはいるかもしれませんが……)主は今の私たちに合った、私たちが耐えられる献身の道を備えます。しかし、その道はどんどん深みを増していくのです。主が私たちに深みへ招く時、私たちは「これ以上さ

げたら、生活が危ないのではないか」「この道はいばらのようで、心配だらけだ」といくつもの不安を覚えたりするものです。しかし、イエス様は私たちに合った招きをされます。いや、どんどんその道が合ってくると言った方が正しいのかもしれませんが。最初は合っていないとしても、私たちにとってベストな献身となっていくのです。

また主が私たちに深みへ招く時、私たちは「進み方は自分で決めよう。自分の方がわかっているから」とプライドが働くことがあるかもしれません。ペテロはイエス様に「深みに漕ぎ出して網をおろしなさい」と言われた時、その命令に従いました。しかし、もし彼が漁師のプライドを持っていて、「自分の方がわかっている」と思っていたならば、イエス様の命令を拒んだはずで、主の献身の招きに応えるためには、「自分の方がわかっている」というプライドを捨て、主がすべての領域のスペシャリストであることを認める必要があります。全知全能なるお方を信じて、ついていくのです。

「人間をとる漁師にしてあげよう」とイエス様がペテロに言われたように、献身へと招かれる理由は人々をイエス様のもとへ導くためです。そのために、主は私たちに深みへ、深みへと招かれます。深みのある献身は本当に冒険ですが、主の素晴らしさを人一倍味わうことができる旅です。どれだけイエス様が私たちのことを想ってくださっているのか、どれだけイエス様がすべてのことを知っておられ、何でもできるお方なのか、そのことを体験できる旅路です。もしイエス様から「これまで以上にわたしのためにささげ、仕えなさい」という招きが来たならば、その時私たちは恐れず、プライドを捨てて、従っていく者でありたいと思ひます。



開拓のために借りた戸建ての建物

CONTENTS

巻頭メッセージ
深みへ招くイエス
中山 有太 師

集会・奉仕レポート
3.11 東日本大震災
追悼記念礼拝

研修旅行レポート
世界ハレルヤ滞在記
番外編 沖繩編 No.1

BOOK あらかると



2017 Apr.



3.11 東日本大震災追悼記念礼拝

レポート：第26期生 掛端 舞子



3月11日土曜日、今年も日本キリスト教団 仙台青葉荘教会で「3.11 東日本大震災追悼記念礼拝」が執り行われました。2011年3月11日の東日本大震災から6年目となる今回、私は初めてこの追悼記念礼拝に参列し、また奉仕をさせていただきました。

6年前の3月11日午後2時46分、私は仕事で東京におり、セミナーを受講中でした。ビルの9階の下から突き上げる揺れと、その大きさに驚き、デスクの下に身を屈め、携帯の小さな画面で報道映像を見てショックを受けました。その時のことを今でも鮮明に覚えています。そして今、直接被害を体験された方々の心の悲しみ、いたみは、どれほど深いんだろうか、私自身が同じ立場だったらどうなんだろうか、とあらためて考えさせられる時となりました。



仙台青葉荘教会牧師 潮 義男 師

メッセージは、会場となった仙台青葉荘教会の潮牧師でした。潮師は、6年間「命の電話」のボランティアをされていましたが、3年目のある日、受話器のその先でただ泣く声が聞こえた。そして泣き声が止んだ後、一言「死にたい」という言葉が聞こえた。その後、その自殺願望を言葉にした幼い女子中学性の心から溢れ出る想いを、ただ聞いていたと話されていました。そして、教会は命と死を語り、見つめ、また喜び、感謝を伝える働きであり、真の慰めと命、キリストに繋がっている、永遠の命をのべ伝える働き。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです」(ヨハネ 11:25) と語られました。

追悼記念礼拝を迎える前の一週間、私は「慰め」について黙想しておりました。私自身、人間の慰めには限界があることを体験し、真の慰めと回復は、神さまとの関係の回復にしかないと確信しています。3月4日に発刊された河北新聞には、東日本大震災関連記事が掲載されており、「仮設・災害公営住宅入居者の孤独死 被害3県243人 男性7割 宮城、最多114人」「入居が本格化している災害公営住宅では、孤独死が増加の一途をたどっている」と書かれていました。このようにして、希望を失っている人達が沢山いて、その苦しい生活にたえられず、自殺をしてしまったのだと。私は、昨年10月4日に拡大宣教学院に入学し、これまで何度か、宮城県石巻市にある復興住宅と仮設住宅での支援活動に参加させていただきました。日常生活のたわいもない会話をしながら「心の内側の回復はどうなんだろう」「相手の立場だったら、私はどうなんだろうか」と、心のなかで模索している声が聴こえていました。そして、仮設住宅での活動に2回目に参加した際に、最後に皆でお茶を飲んでいて、一人の女性が「誰も私のことを愛してくれない」と発したその言葉と、その正直さに胸がいたみました。大人の孤独な魂の悲しみ、苦しみ嘆きの声。「人の子は、失われた人を捜して救うため来られたのです。」(ルカ 19:10) この御言葉が頭の中を巡りました。仮設住宅からの帰りの車の中でも、その女性の言葉が頭に残り、「やはり、人間は愛されている実感を求めているんだな」と夜空を見上げながら帰りました。

「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたか。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」(黙示録 3:20)

これからも、被災された方々のために執り成し祈り続けます。そして、福音を待っている方々が、神さまと出会い、イエス様と食事を共にされ、失望が希望に変えられ、永遠の命が与えられるように祈り、イエス様の愛を持って、被災地の方々に接して行きたいと思えます。

世界ハレルヤ 滞在記 番外編 沖縄編 No.1

3/13~17 研修旅行



先月、4泊5日の研修旅行に、昨年の卒業生と今年卒業する第24期生、そして永井学院長の計8人で、沖縄へ行って参りました!!

いくつかの教会にお邪魔させて頂き、色々お話を聞かせて頂いたり、奉仕や証しをさせて頂いたり、またちょっとだけ観光で、世界遺産になっている歴史的名所も拝見しました。それらの様子を数回に分けてレポートさせて頂きます。まず今回は、旅のあらすじといった感じで、ざっくりとレポートさせて頂き、次回から詳細をご報告致しますが、初日と5日目は、ほぼ移動だけでしたので2日目~4日目の動向をレポート致します。

14(火) 2日目

2日目は、はじめにお邪魔したのは、クリスチャンで陶芸家の松田さんの作業場と、奥様が牧会している教会「ヘブンスチャーチ」です。



工場でお話をして頂いた後、教会で松田さんご家族と教会の祝福を祈らせて頂きました。

午後からは、「白い家フェローシップチャーチ」と「美浜教会」にお邪魔しました。



「白い家~」では、建物の中を案内して頂き、お証しも聞かせて頂きました。「美浜教会」では、短い時間ですが、交わりの時間も持てました。



15(水) 3日目

3日目は、ちょっと観光気分で「美ら海水族館」と「今帰仁城跡」へ行き、夜は「金武バプテスト教会」の祈禱会で奉仕と証しをさせて頂きました。



祈禱会のなかで、先方の信徒さん達と一緒に祈る機会が与えられ感謝でした。



4日目は、午前中「首里城」へ行き、その後はおみやげなどの買い物をしました。

16(木) 4日目

BOOK あらかると

永井信義



最近、復刻版や古典的名著が翻訳、出版されることがありますが、その中で特におすすめなのが、イヴリン・アンダーヒル著『内なる生』(新教出版社)です。著者が1926年にした、英国国教会司祭たちへの講演がもとになった、英語圏では長年にわたって読み継がれている一冊です。

いわゆる教職者向けの本ですが、すべてのキリスト者にも通じることばがほぼすべてのページに綴られています。

「『祈る人』とは、神と他の人びととの交わりが、あらゆる点において神ご自身によってつかざどられ、駆り立てられるべく、そのことを決意して望み、そしてそのことを断固として求める人です。」

